

< イエスの手本に学ぶ >

ヨハネ 13:12-20

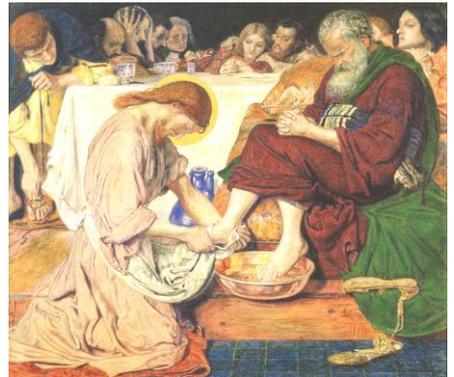
「あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。」 (ヤコブ 5:13)

「神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、
世の悲しみは死をもたらします。」 (第二コリント 7:10)

「あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。」
(ヨハネ 16:20)

主イエスは、十字架にかかれる前に、弟子たちの足を洗い手本を示された。

「…主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。…あなたがたに模範を示したのです。」



「事が起こる前に、今からあなたがたに言っておきます。起こった時に、わたしが『わたしはある』であることを、あなたがたが信じるためです。」 (13:19)

事が起こる…ユダの裏切りによって主イエスが捉えられ、十字架につけられて殺され、墓に葬られ、三日目によみがえり、天に昇り、主イエスに代わる助け主として聖霊が与えられるという一連の十字架のみわざの出来事のこと

「わたしはある」…「エゴ・エイミ」。存在し、存在し続ける絶対的存在。旧約聖書で、まことの神ご自身の自己紹介に使うことば。

「わたしがあなたがたに何をしたのか分かりますか。」 (:12)

全地の主であるお方が、しもべとなって仕えられた。

ルカ 22:25-27「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々に対して権威を持つ者は守護者と呼ばれています。しかし、あなたがたは、そうであってははいけません。あなたがたの間で一番偉い人は、一番若い者のようにになりなさい。上に立つ人は、給仕する者のようにになりなさい。食卓に着く者と給仕する者と、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く者ではありませんか。しかし、わたしはあなたがたの間で、給仕する者のようにしています。…」

主イエスの手本は、全人類に対する模範であり、全人類の幸いと祝福に関わること。人間がともに生きるとは、誰かが力によって支配することによっては成し遂げられない。

弟子たちと初代教会は、全地の主のことばとして信じ、受け入れた。

ローマ帝国の力をもってしても、教会を征服することはできなかった。

現在の教会はどうだろうか？

「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者が入るのです。」 (マタイ7:21) (マタイ25:31～)

現在、世界には23～24億人のクリスチャンがいると推計されている。

私も含め、今こそすべてのクリスチャンは、真剣に主イエスの声に耳を傾ける必要がある。

主イエスの手本に学ぶことに真剣になる必要がある。